

3 C区市町村包括補助 令和5年度採択事業実施経過レポート

令和8年6月
東 京 都

はじめに

東京都は、「2050東京戦略 ～東京 もっとよくなる～」(令和7年3月策定)において、戦略の核に据えた**3つのC (Children(子供)、Chōju(長寿)、Community(居場所))**を推進するため、区市町村による先駆的・分野横断的な事業に対して補助を実施しております。

本資料には、これまでに採択された事業の実施状況や効果等を掲載しております。各区市町村におかれましても、**事業の検討・構築や本補助事業の活用に、ご活用いただけますと幸いです。**

目次

- 1 . Children【子供（通常）】 P4
- 2 . Children【子供（少子化対策）】 P5
- 3 . Chōju【長寿】 P6
- 4 . Community【居場所】 P8
- 5 . 参考 P10

実施内容

図書館を活用した多世代交流拠点・居場所の整備【本の森】

- ・秋津図書館の中庭（図書園）を多世代交流スペースに再整備
- ・地域人材の担い手によるイベントを開催し、居場所づくりや地域参画を促進

だれもが利用できるスポーツ施設の整備【スポーツの森】

- ・秋津ゲートボール場に防球ネット等を整備し、ボール遊びが可能で、だれもが利用できるスポーツ施設へと転換

デジタル技術の活用による「安心エリア」の創出

- ・「見守り端末」の導入による「安心エリア」の創出
- ・両施設への見守りセンサー設置による子どもの遊び場拡大

3か年のスケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度
アンケート・中学生意見交換会	愛称投票 → 本の森花植えボランティア	本の森イベント実施・地域連携
図書園改修工事	両施設改修工事	スポーツの森開放 → 本の森開園
見守りセンサー設置	見守りセンサー運用・周知	



本の森（図書園）園内図



スポーツの森（秋津ゲートボール場）

子供の意見を反映した取組

子供の声

秋津地区アンケート調査

- ・屋根やパラソルが欲しい（図書園）

中学生意見交換会

- ・お花や植物を植えたい（図書園）
- ・ボール遊びができるように高いフェンスにしたい（秋津ゲートボール場）
- ・分かりやすい名前にしてほしい（秋津ゲートボール場）

取組内容

- ・パーゴラとタープを設置（図書園）
- ・芝生や花壇を設置し、花植えイベントを実施（図書園）
- ・高さ7mのフェンスを設置（秋津ゲートボール場）
- ・小中学生等の投票で愛称を「本の森」、「スポーツの森」に決定

実施の効果

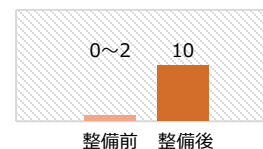
【本の森（図書園）利用者数】

- ・「毎月1週目（10時と15時）の利用者数」が平均10人/日（令和7年10月～12月）となり、整備前の利用人数0～2名、KPI（平均5人/日）を上回った
- ・令和7年3月に開催した「花植えイベント」には約50人のボランティアが参加したほか、令和7年7月の「オープニングイベント」には80人が参加

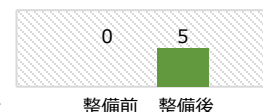
【スポーツの森（秋津ゲートボール場）放課後における子どもの利用者数】

- ・「放課後における子どもの利用者数」が平均5人/日（令和7年度四半期毎）となり、整備前の0人（平日午前中に団体利用があるのみ）、KPI（平均2人/日）を上回った

【本の森利用者数】



【スポーツの森利用者数】



実施区市町村の声

- ・市の既存施設を有効活用し、子どもを中心とする多世代の居場所を創出できた。
- ・「安心エリア」の創出により子どもが地域で育ち、まちづくりの担い手となる環境が整備された。

実施内容

公共空間における整備

- 公園、運動施設、児童館等トイレの整備により、男女共にベビーチェア・ベビーベッド等を利用できる環境を整え、だれもが子育てしやすいまちづくりを推進

民間事業者における子育て支援の推進

- 「ワーク・ライフ・バランス推進優良企業認定制度」を創設し、民間事業者における子育て支援体制の整備を後押し

子育てサービスの見える化

- 動画の活用による男性の育児参加に関する好事例の発信
- 男性の育児参加に関する講演（ワークライフバランス推進講座）の実施による意識啓発
- 「東村山データラボ」活用による子育て関連サービス（ベビーチェア、授乳室の有無等）の見える化



整備したベビーチェア・ベッド



男性の育児参加に関する講演

東村山データラボ 地図情報



子育てサービスの見える化（東村山データラボ）

3か年のスケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度
公共施設等トイレ設計・整備	公共施設等トイレ整備・順次供用開始	
優良企業認定制度創設	優良企業募集・認定	優良企業募集・認定
男性の育児参加の好事例発信	ワーク・ライフ・バランス推進講座	男女共同参画推進講座
子育てサービスの見える化		

実施の効果

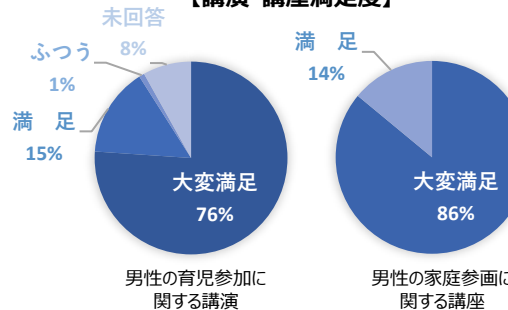
【各取組の満足度】

- ベビーチェア・ベビーベッド等を新たに整備した公園、運動施設、児童館等のトイレの満足度について、使いやすいと回答した方の割合が約7割となった。
- 男性の育児参加に関する講演・家庭参画に関する講座について、参考になった（大変満足・満足）と回答した方の割合が9割超となった。

【ワーク・ライフ・バランス推進優良企業の認定】

- 令和6年度は20企業、令和7年度は9企業を「ワーク・ライフ・バランス推進優良企業」として認定した。

【講演・講座満足度】



実施区市町村の声

- 環境整備と意識啓発を並行して実施し、子育てに関する社会構造の変革に寄与することができた。
- 市民目線に留意しつつ、情報集約型かつ持続可能な形で子育てサービスを見える化できた。

実施内容

デジタル体験（AR）環境整備

- ウォーキングと学習を兼ねたデジタル体験（AR）として、郷土資料館や板橋宿の史跡や熱帯環境植物館内の植物に関するデジタルガイドを提供し、高齢者の外出機会と生涯学習意欲のきっかけを創出

スマートウォッチを用いたフレイル予防

- 大学や民間企業等と研究コンソーシアムを立ち上げ、スマートウォッチを活用した高齢者のバイタル関連データを収集、EBPMに基づいた効果検証を実施

デジタルツインデータを用いたバーチャル水害避難訓練

- スマートフォンで体験できるバーチャル水害避難訓練アプリの開発により、避難訓練をWEB上で実施
- 浸水地域に居住する高齢者を含む住民が水害避難における知識を習得し、避難時の逃げ遅れを防止

敬老入浴事業のスマート化

- 70歳以上の区民が利用できる敬老入浴券をスマートフォンに対応した二次元コード付カードに変更
スマートフォンだけで入浴することも可能になり、利用者の利便性が向上



板橋デジタル歴史探訪AR体験パンフレット

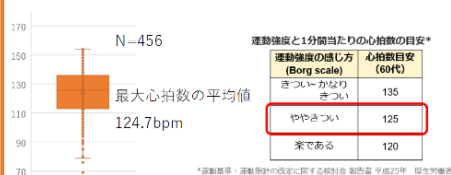
敬老入浴カード
（スマートフォン
表示イメージ）バーチャル水害
避難訓練アプリバーチャル水害避難
訓練の様子

3か年のスケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度
デジタル体験環境整備	郷土資料館デジタルガイド導入	板橋宿デジタルガイド導入
スマートウォッチを用いた フレイル予防	スマートウォッチ配付・活動モニタリング（バイタル関連データの収集・分析）	
バーチャル水害避難訓練	アプリ開発	訓練実施
敬老入浴事業のスマート化	システム設計・開発等	運用開始

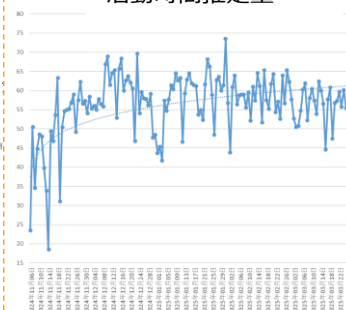
実施の効果

デジタル体験（AR）環境整備

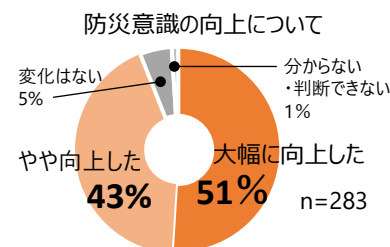


デジタル体験参加者の心拍評価は、「ややきつい運動強度」であり、デジタル体験スポットを回ることが、適度な運動と同じレベルであると評価できる。

活動時間推定量



スマホ教室（デジタル健康ウォーク）参加者97名にスマートウォッチを着用してもらい、平均活動時間推定量を5か月間モニタリングした結果、活動量の継続的な増加が見られた。取組が効果を上げ、運動を促していると評価できる。

デジタルツインデータを用いた
バーチャル水害避難訓練

アプリ体験者のアンケートでは、**93%**の方が防災意識の向上を実感したと回答しており、意識変容が促進されている。

実施区市町村の声

・3C補助の活用により、区だけでは実現できない実証的な取組を実施できた。
・「医者に匙を投げられた」と言っていた80代の女性が、本取組を通して、健康とデジタルに興味を持ち、「水泳を始め、曲がっていた背中がまっすぐ伸びた。AIペットを飼おうと考えており、もう少し長生きしたい。」と語ってくれた。

実施内容

農機能を備えた多世代交流拠点を整備

- ・高齢者福祉センターを大規模改修し、高齢者を中心とした多世代の住民が相互に交流できる施設「MIZCUL(ミズカル)」に、だんだん畑及びデジタル環境を整備
- ・施設オープンまでの期間、SNSを活用したイベントや農園に関するワークショップ等を令和5年度に2回、令和6年度に3回開催。施設オープン後は、高齢者を中心とした市民ボランティア「だんだん畑サポーター」による定例会を毎月実施し、野菜の選定や種付けを行った。また、夏と冬に収穫祭イベントを開催



だんだん畑で野菜を収穫する様子

デジタル活用によるイベント等を通じた高齢者のいきがい創出

- ・「だんだん畑サポーター」が、だんだん畑の写真や動画をSNSに投稿（令和7年5月から12月までのSNS投稿数50件）。ボランティア同士のコミュニケーションツールとして活用されているだけでなく、投稿を見た人々が施設を訪れるきっかけにもなり、新たな交流機会を創出
- ・だんだん畑での収穫イベント、収穫した野菜を使用した食育講座、畑の管理ボランティアをはじめとする様々なイベントや講座等において、高齢者をはじめ多世代の住民が交流
- ・デジタル環境を活用して、e-sports大会やデジタルツール利用講座を開催するとともに、スマートフォンアプリ（あるってこ）を活用した健康ポイント事業の実施により、健康増進の取組を推進



e-sports大会の開催



収穫した野菜を使用した食育講座

3か年のスケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度
拠点整備		● 多世代交流センターMIZCULオープン（5月）
プレイベント等の開催及び施設の管理運営計画の策定		デジタルを活用したイベント等の実施
	デジタル環境整備	

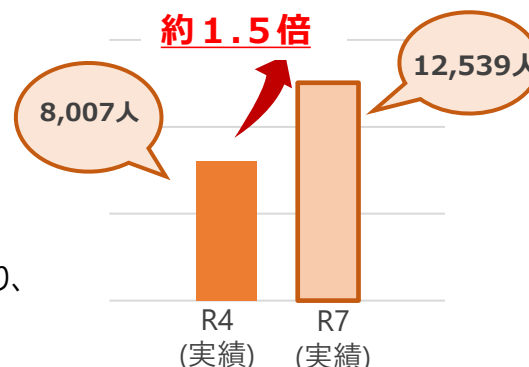
実施の効果

【ワークショップ等参加者の満足度等】

参加者アンケートの結果、満足度は令和5年度が100%、令和6年度は98.3%だった。（目標80%）

【施設来館者数】

施設来館者数は、R7年5月から11月で**12,539人**であり、R4年同時期の来館者数と比較して**約1.5倍増加**した。



実施区市町村の声

- ・改修期間中に、プレイベント等を実施することで、新しい施設に対する住民の気運醸成を図ることができた。また、新しい施設に何を期待するか等を確認し、運営に生かすことができた。
- ・3C補助を活用することで、高齢者がいきがいをもって活動できる様々な事業を実施できた。町では実施したことがないe-sports大会などのイベントにチャレンジするハードルが下がった。

実施内容

「足立区SDGs未来都市計画」の中核を担う事業として、地域のニーズ・特性を踏まえた活動の場づくりと人づくりを行い、地域住民が参加しやすいコミュニティを形成

- 20年近く空き店舗だった綾瀬駅西口高架下店舗をリノベーションし、新たな賑わい創出拠点「あやセンター ぐるぐる」として再生
- 常駐する「コミュニティビルダー」が、地域住民の“やってみたい”ことの実現に向けた伴走支援を実施し、イベントの企画から運営までをサポート
- これまで地域活動に参加したことがない住民も気軽に訪れられるよう、「やってみたい」ことを見つける場として本屋・バーカウンターを備えたスペース「oasis」を設置。イベント・キッズスペース「park」も、普段はカフェ利用もできる等、気軽に入れる工夫を凝らしている
- 地域の誰もが来場できるイベントを開催することで、新たに転入した住民とこれまで地域で暮らしてきた住民の交流や地域コミュニティの形成に寄与

3か年のスケジュール

令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設内装工事 →	施設の開設・運営（令和5年10月29日オープン） →	



▲あやセンター ぐるぐる外観



▲oasis（本・カフェスペース）
気軽にコミュニケーションできる
カウンターを併設



▲park（イベント・キッズスペース）
地域住民の「やってみたい」を
チャレンジする場



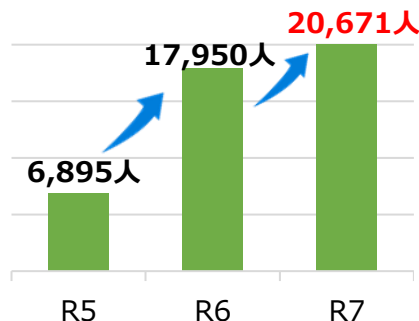
▲ほんわかコンサート



▲ゲストを招いた本のトークイベント

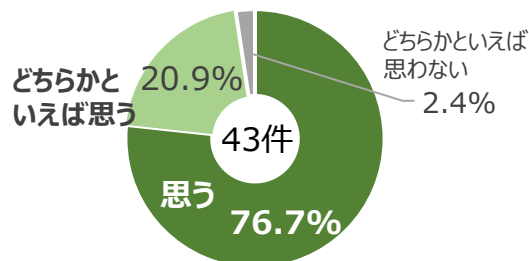
実施の効果

【あやセンターぐるぐる来場者数】



- ✓ 区主催イベントに加え、自主事業（ドリンク販売、にぎわいイベント等）を実施
- ✓ キッズスペースの充実により、小学生や親子連れの利用者増

また施設を利用して「やってみたい」にチャレンジしたいと思いますか？



97.6%がまたチャレンジしたいと回答

実施区市町村の声

3C補助の活用により、空き店舗が目立ち暗いイメージのあった高架下に新たな施設「あやセンター ぐるぐる」が生まれ、新しい賑わい創出拠点として、街の魅力の向上にも寄与することができた。この3年間の成果を活かして、今後は別のエリアでも拠点を整備し取組を展開していく

実施内容

- ▶ **ポットラックプロジェクト** 富士見公園子ども広場にて、「持ち寄り（ポットラック）」をテーマに、地域の方自身が公園を「つかう」「つくる」「つなぐ」として、さまざまな世代、さまざまに暮らす市民にとっての居場所をつくっていくプロジェクト



市民が自分の楽しみ、やりたいこと、できることを公園に「持ち寄り（ポットラック）」「つかう」

- ・トーク（講演会）：全国の公園や公共空間で活動するゲストのトークから取組のヒントを学び考える
- ・ワークショップ：参加者同士でおしゃべりを楽しみながら、公園での過ごし方を考え企画する
- ・イベント：ワークショップで考えた企画をイベントとして実践する



トーク



ワークショップ

だれもが居心地よく過ごせる居場所を“つくる”

- ・市民にとって居心地が良い空間となるよう、ニーズを踏まえてウッドデッキ整備や人工芝生化等を実施

公園運営の仕組みづくりや情報発信により人と人とのつながりや取組を“つなぐ”

- ・トークやワークショップの中で市と企画運営メンバー（市民・事業者）間で意見交換を重ねながら、イベントを実施。試行錯誤を重ねることで、補助期間終了後も企画運営メンバーが主体となり、「コンセプト」や「大切にすること」等の活動理念を共有し、ワークショップやイベントを継続的に運営するための手法を検討
- ・本事業の取組を広く周知し、理解を深めてもらうとともに参加者の輪を広げるためのPR動画を製作



イベント

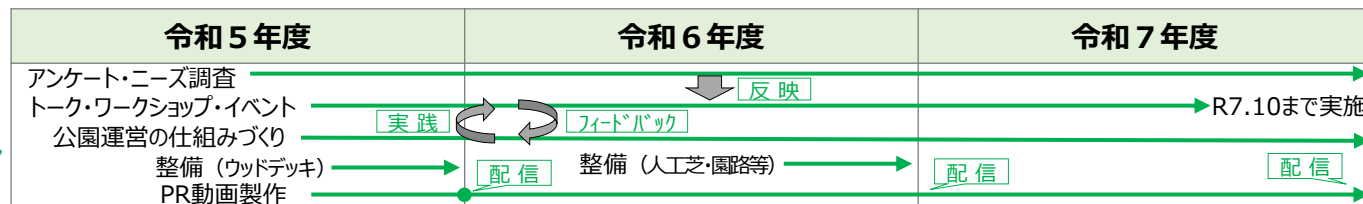


ウッドデッキ設置



人工芝生化

3か年のスケジュール



実施の効果

【参加者アンケート】

- ・令和7年度のイベント参加者及び企画運営メンバーの満足度は90%超

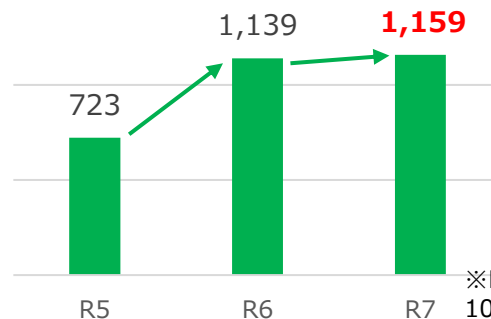


イベント参加者



企画運営メンバー

【イベント参加者数（延べ）】



※R7年度は
10月末実績

実施区市町村の声

- ・3C補助の活用により、拠点整備（ハード）と市民が主体となって継続的に企画運営するための仕組みづくり（ソフト）の両面から事業を推進し、公園の活性化や活用拡大等の効果を得ることができた。
- ・ポットラックプロジェクトを実施したことで、補助期間終了後に市民が主体となって事業を継続するための理念形成や手法検討を行うことが出来た。
- ・今後は、市民主体で企画運営するために必要な伴走支援を行っていく。

○2050東京戦略（令和7年3月）

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/basic-plan/2050-tokyo/>

○こども未来アクション2026（令和8年1月）

<https://www.kodomoseisaku.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/kodomo-mirai-action>

○「叶えたい」を支えたい アクションプラン2026（令和8年1月）

<https://www.kodomoseisaku.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/syoushikataisaku>